

# 第5回近畿圏パーソントリップ調査 の速報値（とりまとめ中）

※ 本資料は、第5回近畿圏パーソントリップ調査の速報値を堺市で独自に集計・とりまとめたものです。  
今後、不明データの処理等により一部数値が変更となる可能性があります。

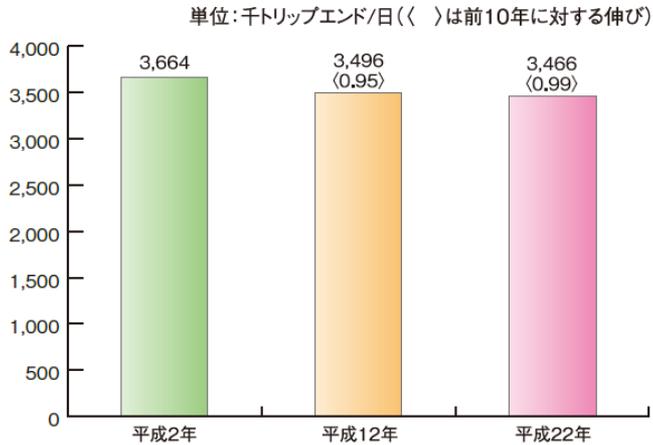


図. 発生集中量の推移 (平日)

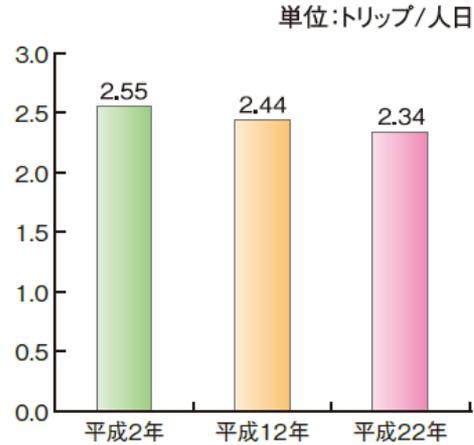


図. 生成原単位の推移 (平日)

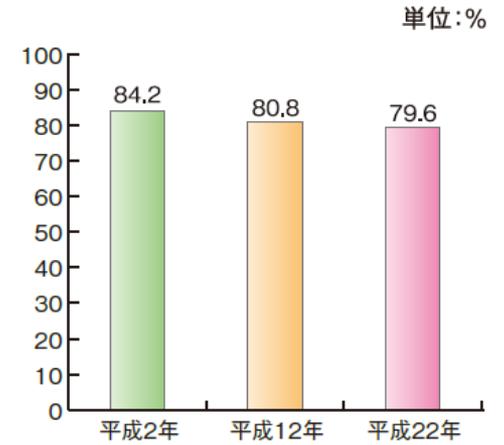


図. 外出率の推移 (平日)

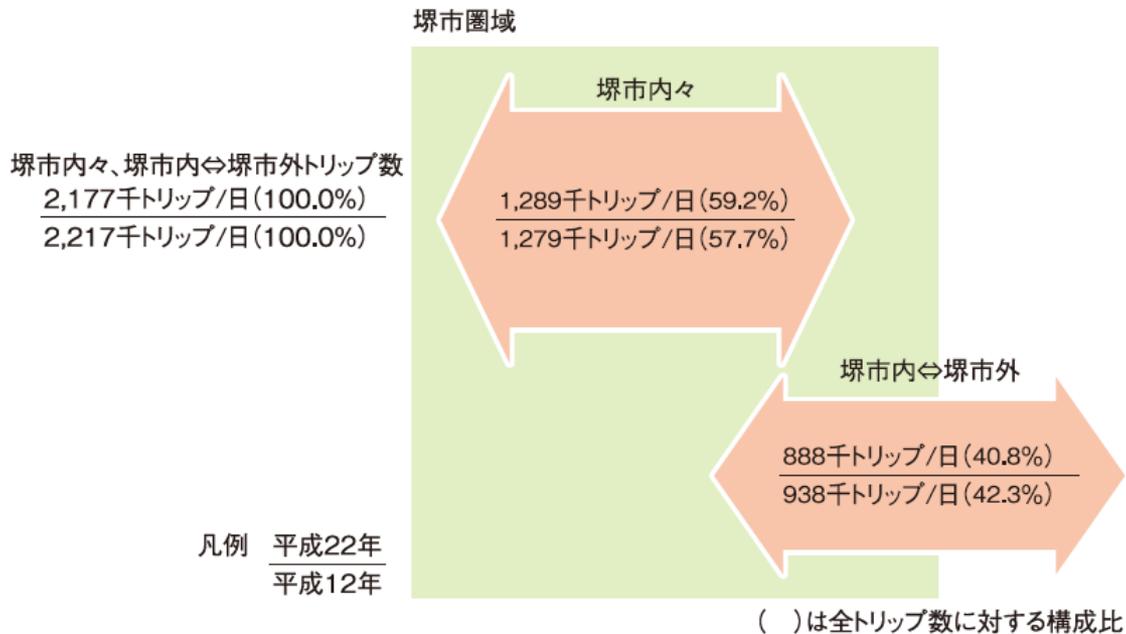


図. 堺市を発着する人の動き (平日)

平日の総トリップ数は、この10年で微減している。  
 また、生成原単位、外出率ともに減少している。

堺市発着トリップのうち、約6割が堺市内々トリップ、約4割が堺市内外トリップであり、堺市内外トリップは減少しているが、堺市内々トリップは増加している。

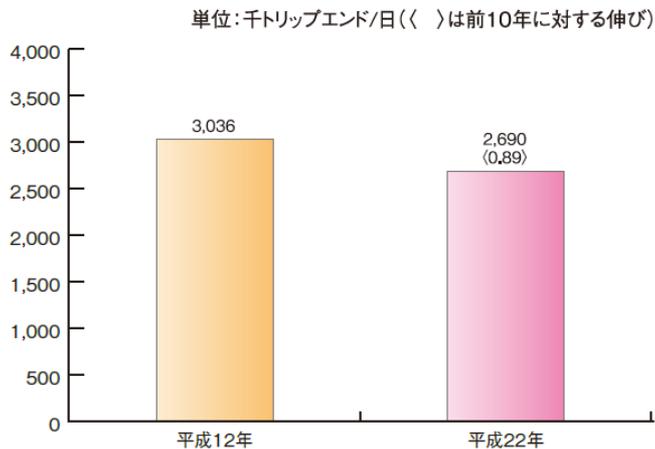


図. 発生集中量の推移 (休日)

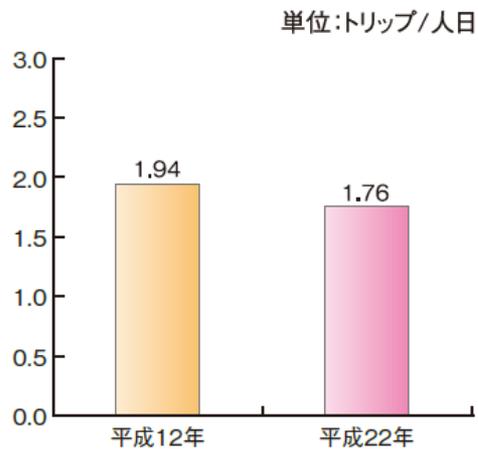


図. 生成原単位の推移 (休日)

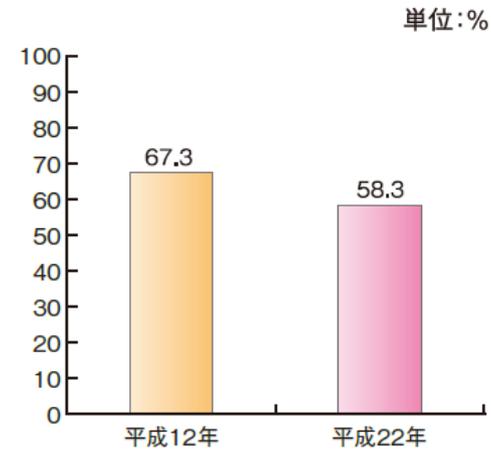


図. 外出率の推移 (休日)

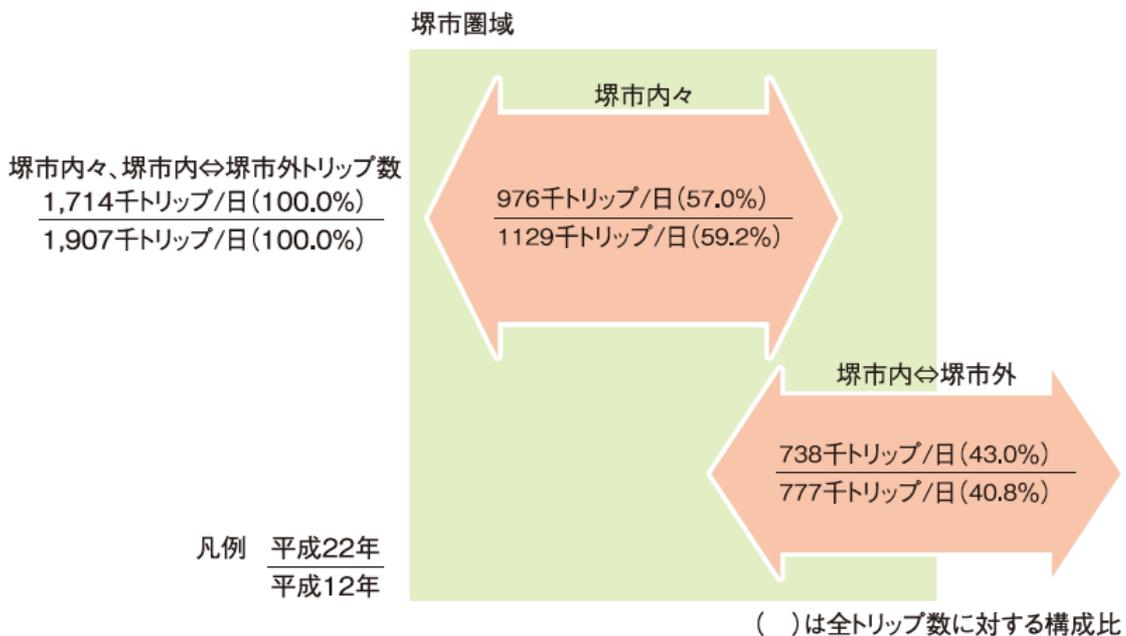


図. 堺市を発着する人の動き (休日)

休日の総トリップ数は、この10年で平日に比べ大きく減少している。また、生成原単位、外出率ともに減少している。

平日と同様、堺市発着トリップのうち、約6割が堺市内々トリップ、約4割が堺市内外トリップであり、いずれも減少している。

目的構成の推移を見ると、平日は、出勤目的の割合が減少し、自由目的の割合が増加している。  
休日は、自由目的の割合が減少している。

代表交通手段構成の推移を見ると、平日は、鉄道の割合が増加し、自動車と徒歩の割合が減少している。  
休日は、平日と同様に鉄道の割合が増加している。

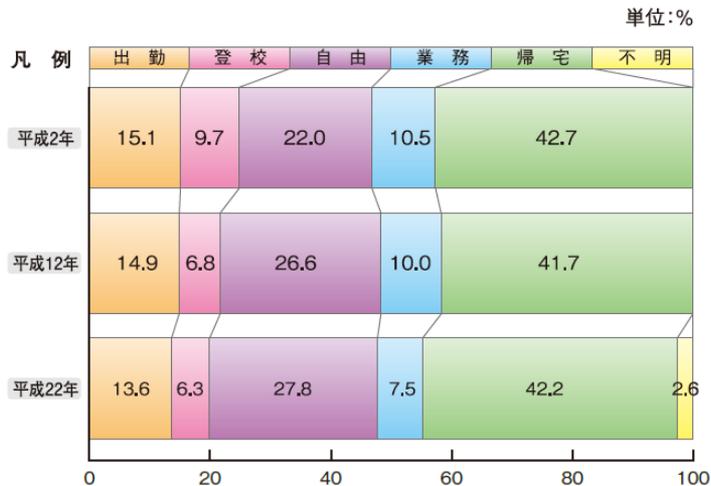


図. 目的構成の推移 (平日)

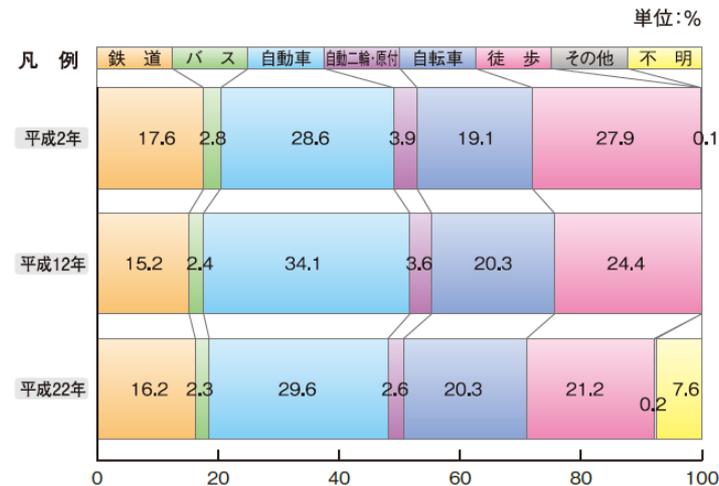


図. 代表交通手段構成の推移 (平日)

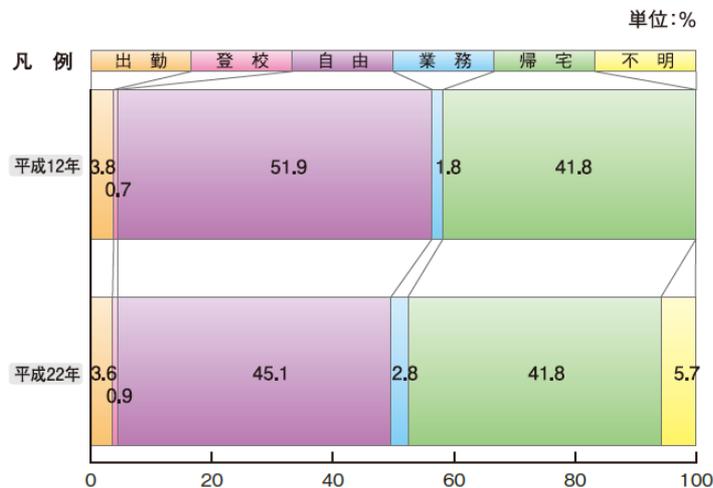


図. 目的構成の推移 (休日)

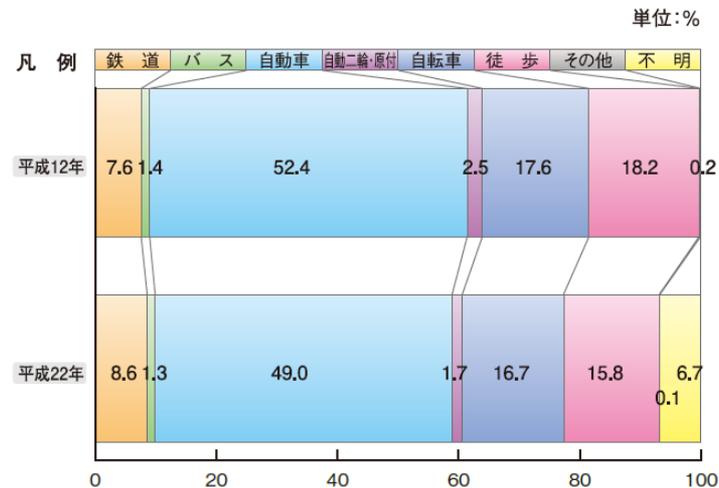


図. 代表交通手段構成の推移 (休日)

区別に目的構成を見ると、平日は、堺区と美原区で出勤と業務の割合が高くなっている。

休日は、区による違いはほとんど見られず、自由目的が4割以上を占めている。

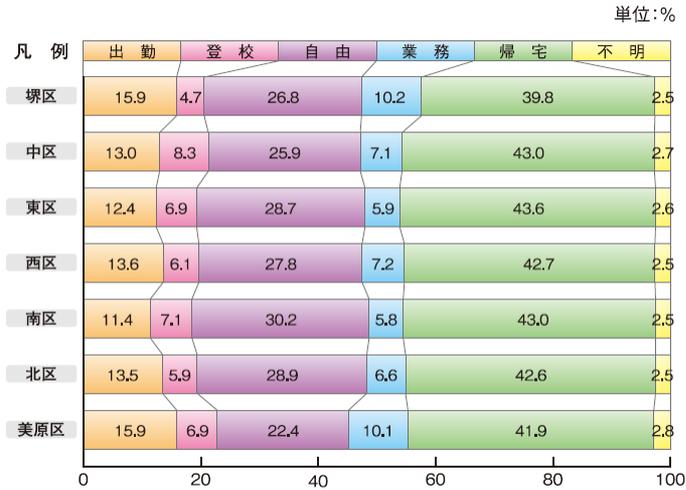


図. 区別 目的構成 (平日)

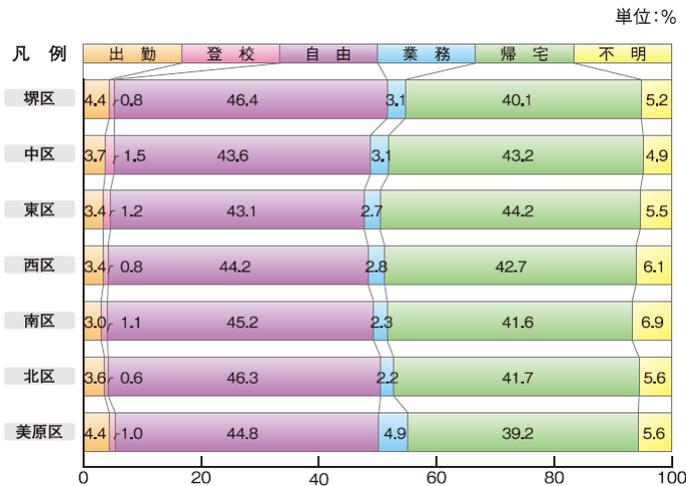


図. 区別 目的構成 (休日)

区別に代表交通手段構成を見ると、平日は、堺区と北区、東区で鉄道の割合が高く、美原区と南区で自動車の割合が高くなっている。

休日は、平日に比べ自動車の割合が高くなっている。

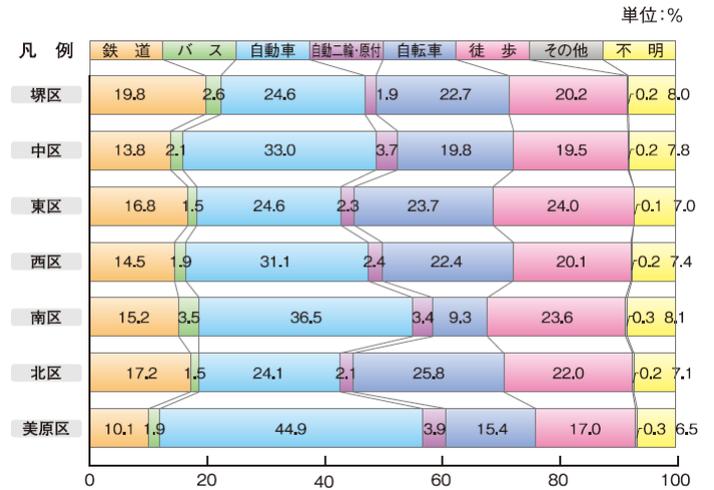


図. 区別 代表交通手段構成 (平日)

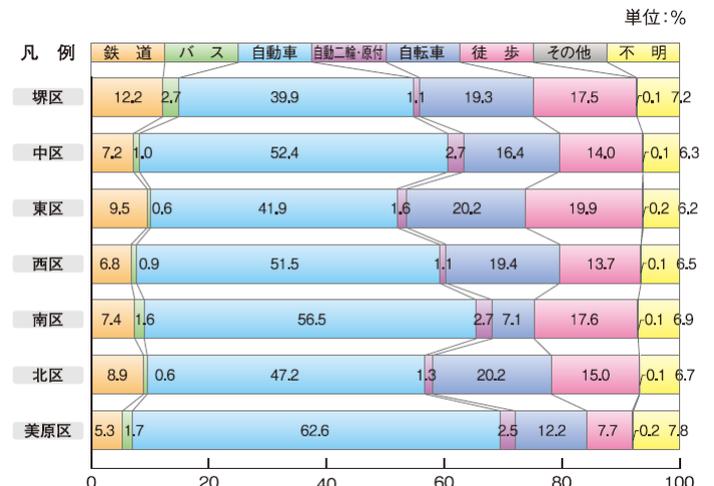


図. 区別 代表交通手段構成 (休日)

性別・年齢階層別に平日の外出率の推移を見ると、男女とも20～30歳代で減少し、60歳以上で増加している。  
 また、平日の生成原単位の推移を見ると、男女とも20～40歳代で減少し、60歳以上で増加している。

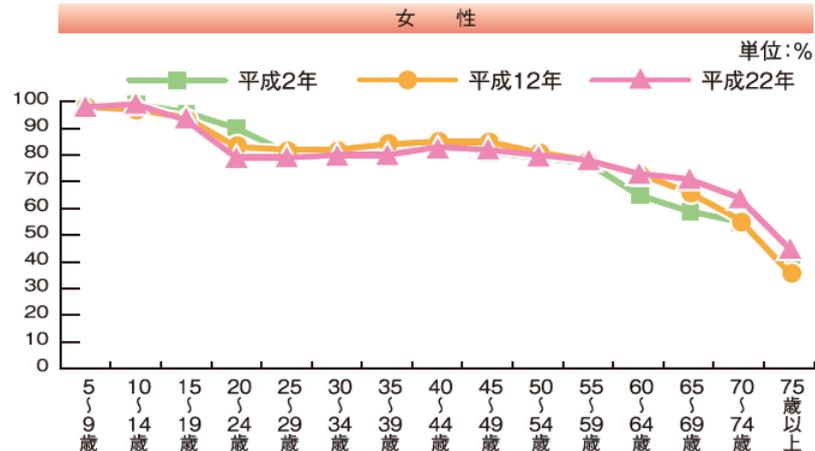
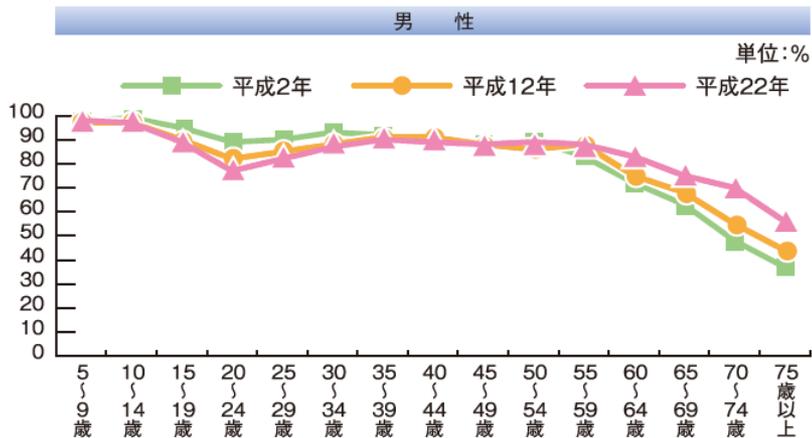


図. 性別・年齢階層別 外出率の推移（平日）

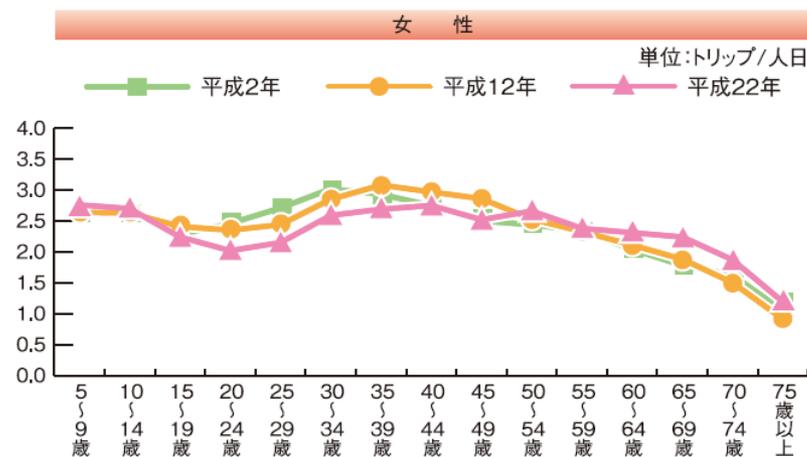
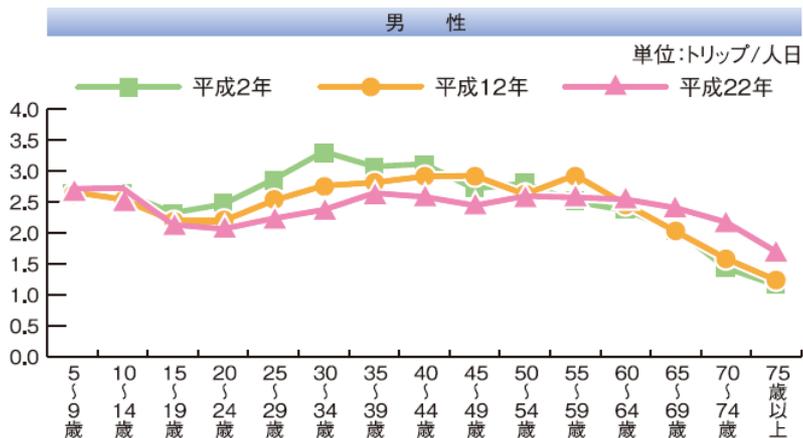


図. 性別・年齢階層別 生成原単位の推移（平日）

堺市と周辺都市との流動を見ると、大阪市、泉州、南河内との間で流動が多くなっている。

交通手段構成を見ると、大阪市との流動は鉄道が6割以上を占めており、泉州や南河内との流動は自動車約半数を占めている。

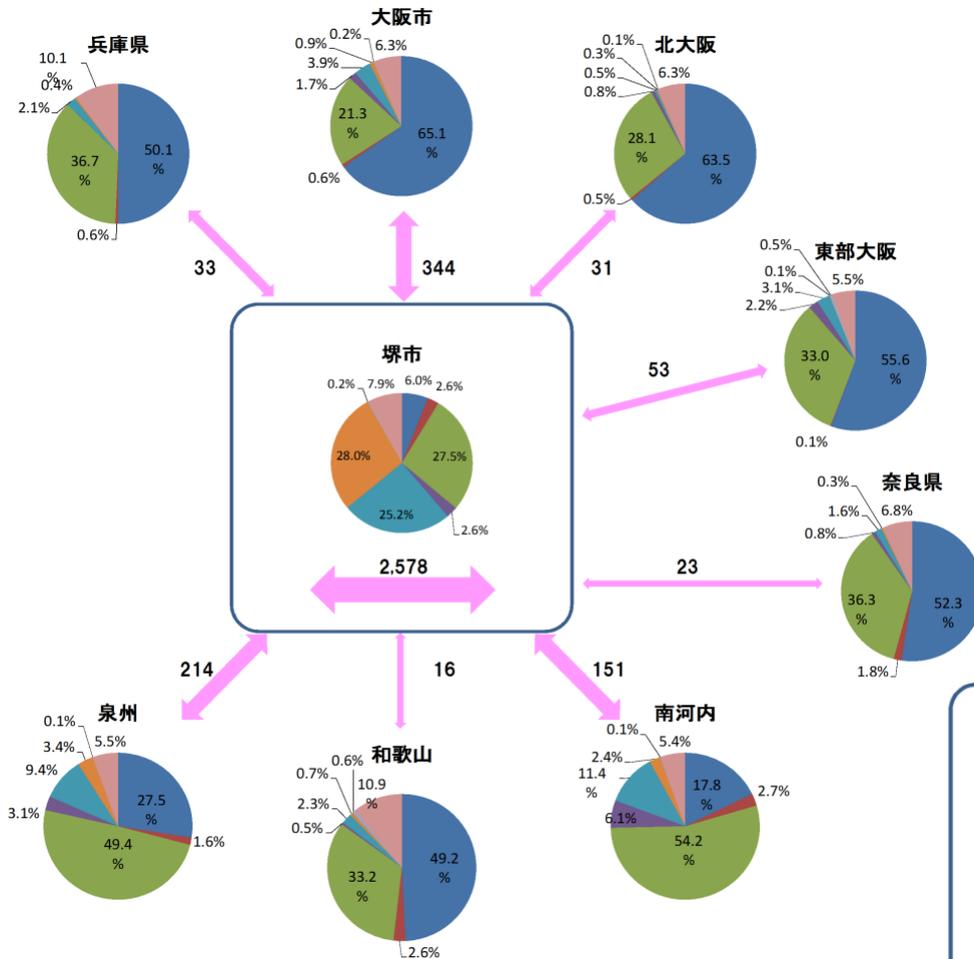
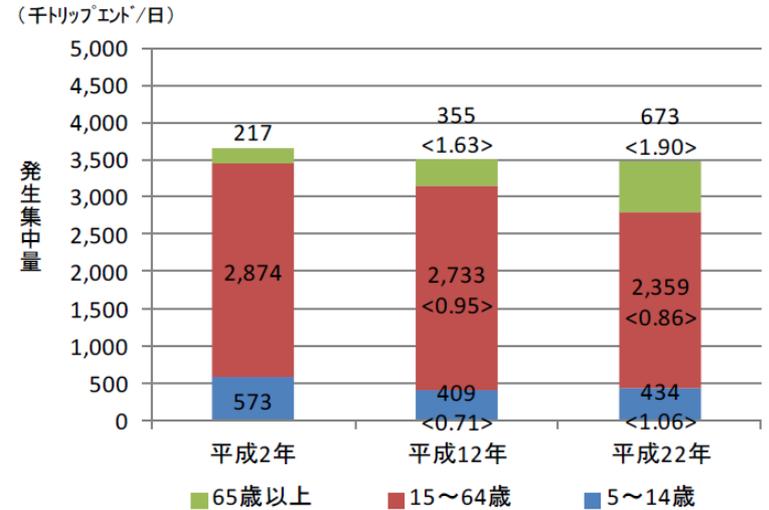


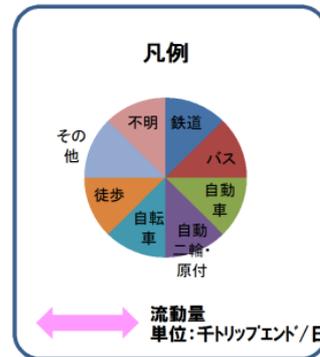
図. 堺市を中心とした人の動き

年齢階層別の発生集中量の推移を見ると、15～64歳が減少し、65歳以上が増加している。



< >は前10年に対する伸び

図. 年齢階層別 発生集中量の推移



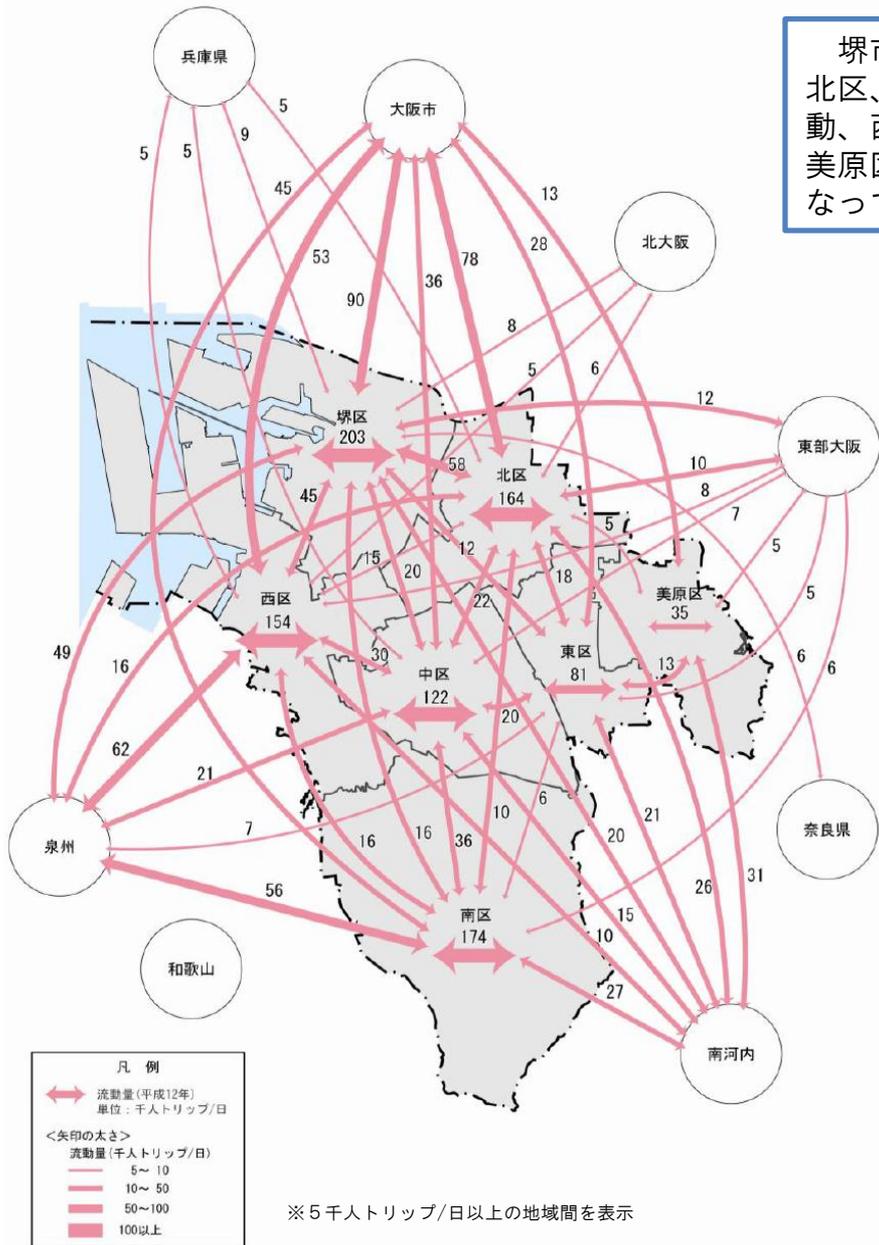


図. 地域間の流動 (その1)

堺市内外の流動を見ると、堺区、北区、中区、東区は大阪市との流動、西区、南区は泉州との流動、美原区は南河内との流動が多くなっている。

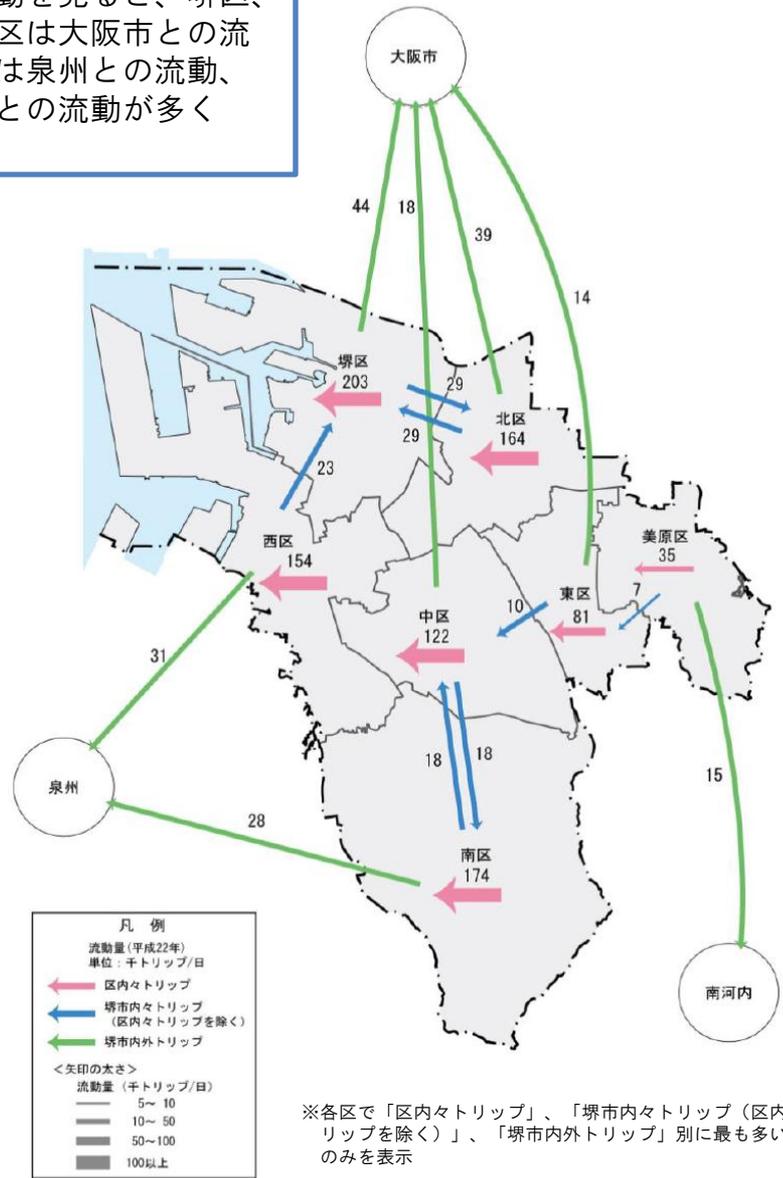


図. 地域間の流動 (その2)

区別・年齢階層別に発生集中量を見ると、堺区の発生集中量が最も多く、15～64歳の割合が高くなっている。

東区や南区では、65歳以上の割合が高くなっている。

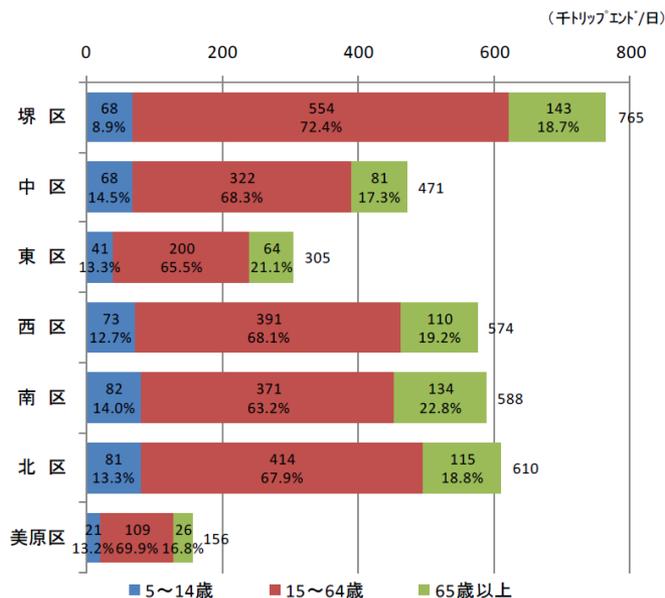
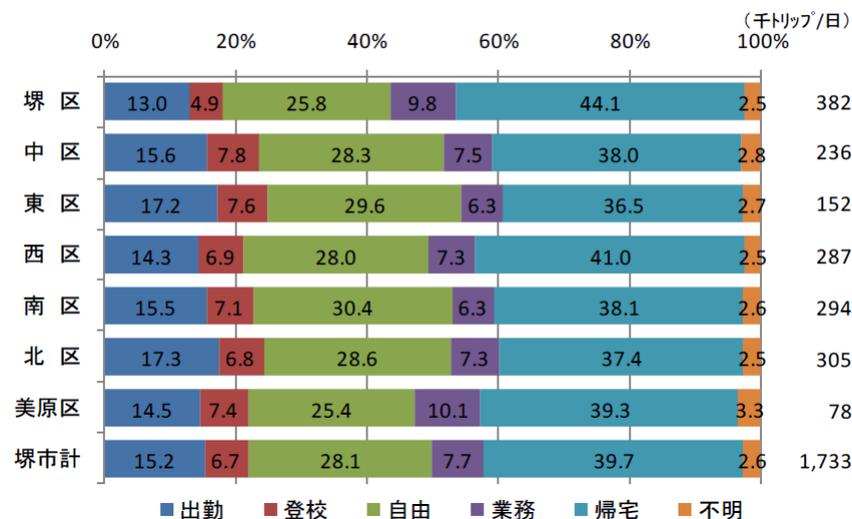


図. 区別・年齢階層別 発生集中量

区別に発生・集中量の目的構成を見ると、堺区と美原区では、出勤目的の集中の割合が発生に比べて高く、従業地としての傾向が表れている。

また、堺区では、自由目的の集中の割合が若干高く、美原区では、自由目的の集中の割合が低くなっている。

【発生】



【集中】

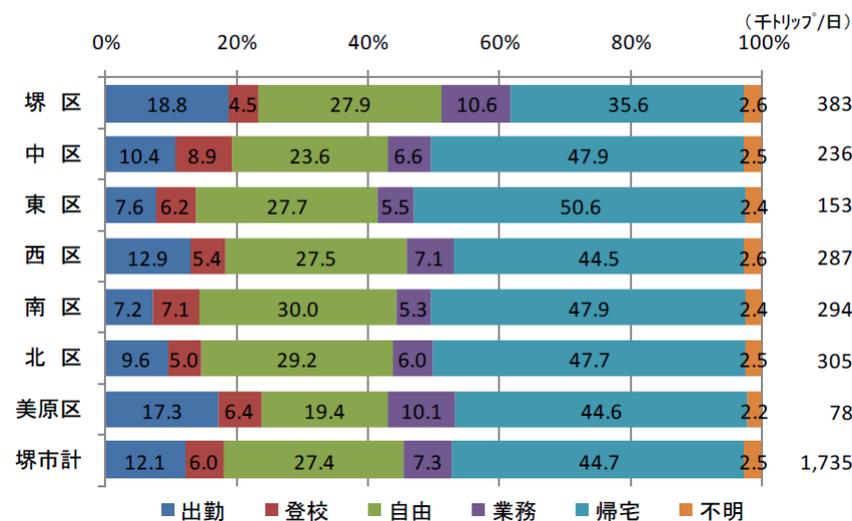


図. 区別 発生・集中量の目的構成